

## 平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	2-1-3	事業名	市民まちづくり活動促進総合事業
担当	市民まちづくり局地域振興部市民自治推進室市民活動促進担当 高田 Tel 211-2964		
全体計画			
事業内容	<p>営利を目的とせず自発的に公益的な活動を行う市民活動団体は、市民が地域の課題などの解決に向けて自ら行動する「市民自治が息づくまちづくり」を目標としている本市において、まちづくりの重要な一翼を担うものである。この活動をより活発なものとするため、市民活動団体への総合的な支援を行うことを目的とする市民まちづくり活動促進条例の制定及び本条例に基づく新たな支援策の総合的な展開を行う。</p> <p>市民フォーラムの開催及びアンケート実施(19年度のみ) 市民まちづくり活動促進条例(以下「条例」という。)の制定(19年度のみ) 市民まちづくり活動促進基本計画(以下「基本計画」という。)の策定 市民まちづくり活動促進テーブル(以下「促進テーブル」という。)の設置・運営 市民まちづくり活動促進基金(以下「基金」という。)及び基金助成制度の設置・運営 市民まちづくり活動フェスティバル(以下「まちづくりフェスタ」という。)の開催 条例のPR及び普及啓発 企業と市民まちづくり活動団体のマッチング事業 市民まちづくり活動人材育成支援事業 市民まちづくり活動の場の支援事業</p>		<p style="text-align: center;">&lt;年度別の事業内容&gt;</p> <p>平成19年度 の実施。～ は準備。 平成20年度 :促進テーブル計画部会で基本計画案の策定。パブリックコメントを経て年度内に基本計画を策定。 :本部委員会、審査部会、計画部会の設置、運営。 :寄付の受付を開始。団体指定、分野指定、テーマ指定など寄付者の意向を尊重した助成を行う。また、基金PRを目的としたパンフレットの配架及びポスターの地下鉄駅掲示板等への掲出。 :10月5日、札幌青年会議所、青少年女性活動協会との共催により、「サッポロファクトリー」にて開催。 :条例パンフレットの作成、配架。 :企業、まちづくり活動団体への訪問、ニーズの把握、マッチングの実施。 : の中で合わせて実施。 平成21、22年度 の実行。</p>
	事業内容	<p style="text-align: center;">平成19年度事業内容(決算)</p> <p>市民まちづくり活動への市民理解を深めるため、平成19年7月24日、講師に弁護士で(財)さわやか福祉財団理事長の堀田力氏等を招いて、札幌エルプラザ3階ホールにてフォーラムを開催し、来場者アンケートを実施。293名の参加があり、来場者アンケートについても197名からの回答があった(回答率67.2%)。さらに市民活動団体向けアンケートとして、市民活動サポートセンターに登録している団体及び市内に拠点を置く特定非営利活動法人1,786団体へ郵送でアンケート用紙を送付、643件の回答があった(回答率36.0%)。この両方のアンケートで多く意見があった「市民活動団体間の連携の促進が重要」という内容は条例に反映されることとなった。条例は議会に再提案の後、可決され、制定に至った。さらに、基金PRのためのパンフレット、ポスターの作成を行ったほか、条例に基づく施策・事業について意見を述べる市民活動促進専門アドバイザー会議において、これらの事業を円滑に進めるための検討を行った。</p>	<p style="text-align: center;">平成20年度事業内容(決算)</p> <p>市民まちづくり活動促進テーブル計画部会での検討を重ね、さらに素案に対するパブリックコメントを経て、本計画を策定した。促進テーブル本部委員会3回、計画部会5回、審査部会5回の実施。 基金のパンフレット、リーフレット、ポスター作成、配架、地下鉄掲示板への掲示、雑誌等への掲載により基金、寄付募集、登録団体・助成事業募集のPR実施、基金説明会4回実施。結果、寄付金収入35,546千円、基金登録団体128、基金助成25事業24団体へ23,187千円の交付。 札幌青年会議所、市民活動サポートセンターとの共催による、まちづくりフェスタの開催。 条例パンフレットの作成、公共施設等での配架、イベントでの配布。 企業とまちづくり活動団体のマッチングに向けて、企業の社会貢献活動意欲を高めるために、研究会を設立。 関係部局間での会議を開催、今後の方向性について検討。</p>
場所	<p style="text-align: center;">平成21年度事業内容(決算)</p> <p>計画策定後、その重点施策、事業の進捗状況についての調査を実施。 促進テーブル本部委員会2回、審査部会8回の実施。 多様な基金PR( )、「さぼーとほっと基金をささえる会」による募金活動等を展開。46,461千円の寄付金があり、61事業57団体へ20,409千円の助成を実施、基金登録団体も増加し192団体となった。PR～パンフレット、リーフレット、ポスターの作成、配架、地下鉄掲示板への掲示・雑誌等による広告・基金説明会の開催・基金キャンペーン事業による20を超える各種イベントでのPR、アンケート調査、募金活動 まちづくり活動への関心は高いが、活動には参加していないシニア世代を対象にまちづくりフェスタを開催。80人の参加があった。 条例パンフレットの作成、公共施設等での配架、イベントでの配布。 さっぽろまちづくり研究会を3回開催。延べ79社106人の参加があった。</p>	<p style="text-align: center;">平成22年度事業内容(予算)</p> <p>策定した基本計画書及びわかりやすい概要版を配布し、基本計画のPRを図るとともに、事業の進捗状況についての調査を実施する。 助成の審査や計画の進捗管理を行うため、促進テーブル本部委員会、事業検討部会、審査部会を運営。 基金PR(パンフレット、ポスターの制作及び配架等)、寄付の募集、基金説明会の実施、基金登録団体の募集、基金助成団体の募集及び助成等実施。 他機関との共催による、まちづくりフェスタの開催。 条例パンフレットの作成、配布。 研究会参加企業を中心に、活動団体とのマッチングを実施する。 促進テーブル事業検討部会において、人材育成のより効果的、効率的な進め方について検討。 活動団体のニーズを踏まえて、星園高校跡施設の活用方法について検討。</p>	
規模			
件数			
等			

## 平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	2-1-3			事業名	市民まちづくり活動促進総合事業		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
市民まちづくり活動促進条例制定	検討	制定	施行			制定 (19年度)	
市民まちづくり活動促進基金設置	検討	検討	設置			設置 (20年度)	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 基金への寄付による市民参加は76件、16,009千円。基金への登録団体は21年度末時点で192団体。基金の団体登録及び助成に関する説明会を実施、26人の参加があった。まちづくりフェスタにおいては、延べ80人の集客があった。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] 企業等団体からの基金への寄付は21年度合計で30,451千円となっている。 [人材協力] [情報協力] [その他の協力] さっぽろまちづくり研究会への参加(3回の開催で延べ79社106人)。企業による活動団体PRの場の提供。</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり さっぽろオータムフェスト等多くのイベントに出向き基金のPRを実施。その他、基金のパンフレット及びポスターによるPR、基金説明会の開催等により情報共有を行い、市民参加を図っている。企業に対しては、直接訪問したり企業向けリーフレットを送付するなど企業の社会的責任を果たす方法として当基金を活用できることを説明し、参加を呼びかけている。</p>							
評価(成果)			課題				
<p>これまで実施してきた基金PRに加え、緊急雇用創出推進事業を活用した基金キャンペーン事業の基金PR及び「さぼーとほっと基金をささえる会」による気軽にできる寄付方法の開発により、基金への寄付については、当初目標の3,000万円を大幅に超え、約4,646万円の寄付が寄せられた。</p> <p>基金の登録団体については、21年度末時点で192団体。基金助成については、61事業57団体に20,409千円の助成を実施。</p> <p>「さぼーとほっと基金をささえる会」の設立により、郵便・銀行振替寄付の導入、寄付付自動販売機の設置、ユニークな募金箱を活用した募金活動等を実施することができた。</p> <p>まちづくりフェスタについては、シニア世代を対象とし、9月5日札幌エルプラザにて開催。基金登録団体18団体がブースにより活動PR等を行い、延べ80人ほどの集客があった。</p> <p>企業と活動団体のマッチングについては、「さっぽろまちづくり研究会」参加企業を中心に47件協議し、34件成立した。また、マッチングを促進するために研究会を3回開催し、延べ79社106人の参加があった。</p>			<p>市民まちづくり活動促進条例における、市民まちづくり活動団体への4つの支援をいかに効果的、効率的に行うかが今後の課題である。20年度に引き続き、21年度も寄付目標額の3,000万円を達成することができたが、22年度も同様に継続した寄付をいただくために、大口の寄付が期待できる企業への基金説明等、積極的なPRを図る必要がある。また、気軽に寄付をしやすい仕組みを構築するなどの、寄付文化の醸成につながる環境づくりも重要なことから、「さぼーとほっと基金をささえる会」の取組も継続していく。</p> <p>まちづくりフェスタについては、平成21年度は対象者をシニア世代に絞り、延べ80人の参加があったが、今後は費用対効果の観点からも、できる限り費用をかけず、より多くの方を対象とした企画運営が必要となってくる。</p> <p>企業と市民まちづくり活動団体とのマッチングは、単発的に終わるものではなく、企業が社会貢献活動をする際に、活動団体と協働で行うことができるような環境づくりを検討する。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>市民、企業及び市が連携、協力してまちづくりを担い、豊かで活力ある地域社会の発展に寄与するため、市民まちづくり活動促進基本計画により、市民まちづくり活動促進の施策を総合的、計画的に推進する。</p> <p>本部委員会は3回、事業検討部会は2回、審査部会は寄付の状況にもよるが9回程度の開催を予定している。</p> <p>22年度、分野・テーマに関する助成は7月頃と10月頃の2回実施予定。団体登録及び団体指定の助成は、寄付があり次第、適宜行っていく。</p> <p>22年度は、より多くの市民をまちづくり活動の参加につなげていくために、フェスタと同様の事業である「エルプラまつり(札幌エルプラザ公共4施設主催)」との共催を検討する。</p> <p>条例パンフレットをまちづくりセンターなどの公共施設へ配架を行い、基金とともに継続的なPRを行う。</p> <p>協議中のマッチング案件の成立を目指すとともに、成立した案件についても企業と活動団体が継続的に協働できるようフォローしていく。</p> <p>また、マッチング実践の広報に努め、新たなマッチングの創出を図る。</p> <p>22年度は、促進テーブル事業検討部会において、人材育成のより効果的、効率的な進め方について検討する。</p> <p>22年度は、活動団体のニーズを踏まえて、星園高校跡施設の活用方法について検討していく。</p>							

## 平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		2-1-3		事業名		市民まちづくり活動促進総合事業				
事業費の推移										
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計				
計画	事業費	1,500	17,000	11,000	10,500	40,000				
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0			
		市の債	0	0	0	0	0			
		その他	0	0	0	0	0			
		一般財源	1,500	17,000	11,000	10,500	40,000			
予算	事業費	1,500	44,000	47,000	82,100	174,600				
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0			
		市の債	0	0	0	0	0			
		その他	0	30,000	37,020	75,020	142,040			
		一般財源	1,500	14,000	9,980	7,080	32,560			
実績	事業費	1,434	38,575	29,165	-	69,174				
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0		0			
		市の債	0	0	0		0			
		その他	0	23,187	46,461		69,648			
		一般財源	1,434	15,388	-17,296		-474			
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22予算事業費) / (計画事業費)					378.2%			
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
<p>(全体) 平成19年度に計画していた次の事業は、重要度の高い他の事業を優先するため一旦休止とする。「活動の場の支援事業」～空き店舗での共同事務所スペース設置、公共施設での印刷機、紙折り機等及び打合せスペースを設置する取組 「市民活動ファンクラブの設置」 「地域と市民活動団体のマッチング事業」</p> <p>[19年度]</p> <p>[20年度] 「市民活動総合情報ポータルサイト開設・運営」に関しては、地域の縁結び事業において実施。基金助成は15,000千円の予定であったが、多額の団体指定寄付があったことから、総額23,187千円の助成を実施。</p> <p>[21年度] 市民まちづくり活動を支え気軽に寄付をしやすい仕組みづくりを支援する「さぼーとほっと基金をささえる会」を設置。基金助成は30,000千円の予定であったが、団体指定寄付の大半を22年度に持ち越し、結果助成額は20,409千円となった。</p> <p>[22年度] まちづくり人材育成に関し、講座を開始する予定であったが、より効果的、効率的な実施のため、促進テーブル事業検討部会であらためて検討する。</p>										